

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数の予測（2006年12月）

発表日：2007年1月31日（水）

～ 12月までの好調さを確認。1月以降は緩やかな減速へ ～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ D I 先行指数は 25.0%、D I 一致指数は 61.1%を予想

1月31日時点で公表されている統計により12月の景気動向指数（2月6日公表予定）の予想を行った。先行指数（速報段階10指標）、一致指数（同9指標）とも現時点ですべて公表済みである。

D I 先行指数は10指標中2指標が3ヵ月前比改善、1指標が保合い、7指標が悪化しており、25.0%が予想される。また、D I 一致指数は9指標中5指標が改善、1指標が保合い、3指標が悪化となっており、61.1%が予想される（個別指標の動向については図表を参照）。

	系列名	2005		2006										
		12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
先行 系 列	最終需要財在庫率指数(逆サイクル)	-	+	+	-	-	+	+	-	-	-	+	-	-
	生産財在庫率指数(逆サイクル)	-	+	+	+	-	+	+	-	+	-	+	-	+
	新規求人数(除学卒)	+	+	+	-	-	+	+	+	-	-	-	-	-
	実質機械受注(船舶・電力除く民需)	+	+	+	-	+	+	+	-	-	-	+	-	-
	新設住宅着工床面積	-	-	-	+	+	-	+	-	+	+	+	+	+
	耐久消費財出荷指数(前年比)	+	+	+	+	-	+	-	+	-	+	+	-	0
	消費者態度指数	+	+	+	+	+	0	-	-	-	-	-	+	-
	日経商品指数(42種総合)-前年比	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-
	長短金利差	-	0	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-
	東証株価指数(前年比)	+	+	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-
	投資環境指数(製造業)	+	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	-	-
	中小企業売上げ見通しD.I.	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-
先行指数	66.7	79.2	83.3	50.0	50.0	79.2	58.3	33.3	25.0	25.0	54.5	18.2	25.0	
一 致 系 列	生産指数(鉱工業)	+	+	-	-	+	+	+	-	+	+	+	+	+
	生産財出荷指数(鉱工業)	+	+	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	大口電力使用量	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	稼働率指数(製造業)	+	+	-	-	+	-	+	-	+	-	+	+	-
	所定外労働時間指数(製造業)	+	+	+	+	+	+	+	0	-	-	-	+	-
	投資財出荷指数(除輸送機械)	+	-	-	-	+	+	+	+	+	-	0	0	+
	商業販売額指数(小売業)-前年比	+	0	+	-	-	-	-	+	+	+	+	-	-
	商業販売額指数(卸売業)-前年比	+	+	+	-	-	+	+	+	-	-	+	-	-
	営業利益(全産業)	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	中小企業売上高(製造業)	+	+	-	-	+	+	+	+	+	-	+	+	+
有効求人倍率(除学卒)	+	+	+	-	+	+	+	+	+	0	-	-	0	
一致指数	90.9	77.3	45.5	9.1	81.8	81.8	90.9	77.3	81.8	50.0	75.0	65.0	61.1	

(出所) 内閣府「景気動向指数」

(注) 1. 3ヵ月前の値と比較して改善は+、横ばいは0、悪化は-として表示。
2. 網掛けは第一生命経済研究所予測値

D I 一致指数は61.1%となり、3ヵ月連続で50%を超えたと予想される。2006年中、景気の回復基調が持続していたことが改めて確認されるだろう。2006年10-12月期の鉱工業生産が高い伸びになったことや、同期のGDPで高成長が予想されていることなども総合的である。

一方、D I 先行指数については25.0%と2ヵ月連続で50%を割り込むとみられる。景気に対して半年程度先行するといわれているD I 先行指数からは、2007年入り以降、景気はいったん減速する可能性が高いことが示唆されている。

実際、昨日公表された鉱工業生産では1月の予測指数が大幅に悪化しており、1-3月期の生産は6四半期ぶりに減少となる可能性が高まっている。在庫が高止まりしている状況から考えても、当面、生産は緩やかに減速していくと思われる。D I一致指数は鉱工業生産の動きと連動性が高いこともあり、1月のD I一致指数は4ヶ月ぶりに50%を割り込む可能性が出てきた。先行きについても、半年程度はD I一致指数は50%近傍での推移となることが予想される。景気の一服感が意識される展開になりそうだ。

もともと、米国経済の失速リスクはかなり低下していることから考えて、輸出の減速は限定的とみられる。また、旺盛なIT需要を背景にIT部門の調整は軽微なものにとどまると予想される。内需についても、設備投資が引き続き堅調に推移するほか、個人消費も緩やかな増加が続き、景気を下支えすると予想されている。以上から、2007年前半に想定される景気減速はかなり軽微なものにとどまるとと思われる。

